

## 議事概要

会議の名称	令和3年度第4回三田市総合教育会議
開催の日時	令和4年3月24日（木）10時00分～11時40分
開催の場所	三田市役所南分館6階601A B会議室
出席した委員の氏名	森哲男市長、鹿嶽昌功教育長、大野裕己教育委員、三木尚美教育委員、 中上之仁教育委員、中野文雄教育委員
出席した職員の職及び氏名	〈事務局〉 岸本子ども・未来部長、松下学校教育部長 横溝子ども未来室長、外岡学校教育部次長 杉山すくすく子育て課長、浅野教育総務課長、上野教育総務課学校再編担当課長、 山本学校教育課長、山口教育支援課長、小山教育研修所長、廣瀬学校給食課長 田中すくすく子育て課係長、田村すくすく子育て課事務員
傍聴人の人数	3名
議題	(1) 協議事項 ①今後の学校再編の進め方について ②第2期三田市教育大綱（案）について
会議の概要	P2～10のとおり
公開・非公開の区分	公開
使用した資料	【資料A】今後の学校再編の進め方について 【資料A-1】三田市立学校再編計画にかかるこれまでの経過 【資料A-2】上野台・八景中学校再編地域協議会 最終まとめ 【資料A-3】児童生徒数将来推計 【資料B-1】第2期三田市教育大綱の構成（案）について 【資料B-2】第2期三田市教育大綱（案）
連絡先	子ども・未来部 子ども未来室 すくすく子育て課 電話 (079) 559-5079

## 1. 開会

【横溝室長の司会により開会、配付資料の確認等】

【傍聴者3名】の報告

【三田市総合教育会議の運営等に関する規程第4条第5項に基づき議事進行を森市長に交代】

【市長挨拶】

### (1) 協議事項

#### ① 今後の学校再編の進め方について

- ・ 三田市立学校再編にかかるこれまでの経緯について …資料A-1、2

〈外岡次長から説明〉

森市長：ただ今の説明につきまして質問、あるいはご意見がありましたらお願いしたいと思えます。

中野教育委員：これまでの4年間の経過等も踏まえて丁寧に進めてこられたと思います。地域との協議の中で、どのような願いがこの中に盛り込まれているのかを再度確認をいたしました。この中で、資料A-2の2統合に当たって留意すべき事項の(1)から(3)部分ですが、子どもたちがスムーズに教育が進められる条件面をしっかりと考えていただいていると思います。資料A-2(3)の「②スムーズな統合となるようにできる限り盛んな学校間の交流を行うこと」の部分は、統合後の真価が問われる大事な項目だと考えます。これを中心に据えて連携から一步進めていき、これまで大事にしてきた教育における不易の部分と新しく再編に向けてどう一步を進めていくかの流行の部分をしっかり整理していく必要が今後あると思います。3の統合後に協議すべき事項の中の「⑤学校の跡地の活用に関すること」の部分ですが、地域づくりの拠点的な構想も含め学校教育と地域のまちづくりが両輪となって上野台・八景中学校の再編がうまくいくことを願っています。

三木教育委員：本当に長い間一生懸命、統合に向けて検討され、保護者や地域の方々と何度も意見交換を重ねられて最終的にまとめられたことは良かったと思います。幼稚園の統合が決まり、中学校も同じ地域の中で同じ方向性を向いて取り組んでいくことは、子どもたちにとっても伸び伸び成長していける環境づくりにつながると思います。統合後の再編準備会では、学校、教育委員会、行政が決めていくのではなく、地域の方々が当事者意識を持って、子どもたちのことを第一に真ん中に置いていただいて、自分たちの地域の子どもたちにとってベストな教育環境づくりを主体的に取り組んでいっていただきたいと思えます。

中上教育委員：これまで4年かかっているのので、あとは早く場所を決めてスムーズに進めていただくことをお願いしたいと思います。統合に向けて、上野台中学校と八景中学校との学校の交流やクラブ活動交流などを進め、子どもたちにとってスムーズに学校統合が進んでいくことを願っています。

大野教育委員：地域の方々のペースも大事になることがらとは思いますが、教育行政からも必要な側面支援を行っていただき、新しい学校の設置に向けて、新しい校区になる地域の受皿として学校の地域学校運営協議会ができるだけ早く立ちあがることにご留意いただけたらと思います。元の学校の中に今ある地域学校運営協議会も一つになっていくのだと思いますので、再編統合のスケジュールの中で、できるだけ早く新しい学校への想いを持って支援する形をつくっていただきたいと思います。実際に学校の先生方におかれては、これまでの既存の学校を閉じていかれ、そして新しい学校をつくり上げていくための一連の努力をされることになるとと思います。学校では、こういう教育活動をしたいという意図をつくられていく、これも相当なエネルギーが要りますので、新校区の地域学校運営協議会になる受皿がしっかりと学校の意図を受け止めていただき、学校と対話ができるようにしていただきたいと思います。そのためには、資料A-2の4要望事項の部分の開校のスケジュールや新設校の場所の問題に対しては、はっきりと示していただくことで地域側の新しい学校への期待値が高まっていくと思います。スピード感を持って取り組んでいただきたいと思います。

鹿嶽教育長：上野台中学校は、三田市内でも一番小規模な中学校であり一番課題が大きいということで、「その子どもたちの中学での教育をどのようにするべきか」を、子どもたちを中心に置いた視点で考えていかなければいけないと考えています。一方で、八景中学校は、もともとは昭和23年に神戸市と三田市の組合立で設立した中学校であり、神戸市の長尾町や道場町も校区のほか、三田・三輪及び小野も含めた本当に広大な校区として神戸市と三田市が両方で設置した中学校です。学校も神戸市との市境にありますし、八景中学校のグラウンドは神戸市にあります。鹿の子台や上津台の神戸市北神の開発に伴い、神戸市の北部で中学校ができたことで、昭和60年度からは三田市立の八景中学校となり、三田の中心市街地である三田・三輪を校区に持つ中学校でありながら神戸市域にも存在する中学校としてこれまで続いてきました。これから三田が10年、20年、100年と続いていく中で、やはり三田・三輪を含んだ中心市街地の学校のあり方は考えていく必要があると思っています。八景中学校の位置づけというのは、この学校再編に取り組むこの時期でない限りは、なかなか変更することができないのではないかと考えているところです。地域の方々の色々な思いの中で最終まとめをしていただいたわけですが、その思いにできる限り近づけていく必要があります。市長部局と協力していく必要

がある部分もあろうとは思いますが、地域・保護者の方々の願いを叶えられるようにしっかりと進めていきたいと思ひます。

森市長：事務局から説明があればよろしくお願ひしたいと思ひます。

外岡次長：この留意事項は、再編地域協議会において、各委員の皆さまからの切なるご意見をいただく中で、最終的にこのような形でまとめていただいたところす。新設校の場所などは進める上でも非常に重要なポイントすので、これに向けて尽力をさせていただきますと思ひております。また、統合までの子どもへの支援についても留意事項に挙げていただいておりますが、今いる子どもたちがよい教育を受けられるためにも、また、円滑に統合ができるように取り組んでいきたいと思ひております。

森市長：ありがとうございます。それでは、各委員のご意見をお伺ひしましたので、結論的に次のような形でまとめさせていただきますと思ひます。上野台中学校及び八景中学校再編地域協議会での最終まとめを尊重し、両校については、市として統合に向けて進めることを決定し、今後、具体的な検討及び手続を進めることとします。なお、地域協議会でまとめていただいた「統合にあたって留意すべき事項」については十分留意するとともに、新設校の場所や開校までのスケジュールなどについて、できるだけ早期に示せるよう検討していくことといたします。そのため、今後、教育委員会事務局と市長部局が連携をしながら進めていただけるようお願ひをしたいと思います。

次に、「学校再編の進め方について」、事務局から説明をお願ひいたします。

- ・学校再編の進め方について …資料A－3、資料A

〈外岡次長から説明〉

森市長：森市長：ただ今の説明につきまして質問、あるいはご意見がありましたらお願ひしたいと思ひます。

中上教育委員：2クラス以上なかったら、学校に行きにくいという子どもたちもいるので、クラス替えをできるような環境づくりが一番大切だと思ひます。学校地域運営協議会または保護者として、学校訪問をさせていただいた際などは、やはり、クラスに子どもたちが多くいると多様な意見を聞かせてもらえます。子ども同士が考える力、心、優しさ、思いやりを切磋琢磨できるような環境づくりが必要であると思ひます。再編が必要な地域については地域で再編できるような環境づくりを進めていってもらいたいと思ひます。

大野教育委員：校区変更等を含めて方策はいくつかあるわけですが、やはり本市になじむものが少ないということからすると、今回提示いただいたフローの中での進め方を、小学校を含めて考える時期に来ているのかなと考えています。ただし、今後、協議して新しい形を考えていくうえで気をつけていただきたい点があります。それはやはり教育に関わる保護者や地域、学校などの関係者が、それぞれ持っている情報がなかなか同じになっていかない点を理解する必要があることです。共に解決を目指す、意見を出し合う協働的な学び、それから他者の良さを理解し合うといった部分も含めて教育振興基本計画の中で多面的な資質、能力を育てる教育について、教育に携わる学校関係者、地域の方々の中で目指しているところが一致しているかどうかは問われてくると思います。これまで教育委員会、学校は、情報提供等の努力はされているとは思いますが、目指す方向性や取組について地域に十分理解していただくことが大事だと思います。そのうえで、この規模でいいのか、どういった解決を考えていかないといけないのかを皆さんで話し合っていたきたいと思いますので、このフローの流れを引き続き丁寧にやっていただきたいと思います。

三木教育委員：農村地区を中心に子どもたちが減っており、幼稚園や中学校の再編が考えられる中で、小学校だけが別の地域にあるわけではありません。やはり、その流れの中で全体を見ながら同じように進めていく必要があると思います。また、これからは多様性への理解や共生する社会が求められますので、色々な個性あふれる多様性のある子どもたちが一緒に学べる環境が必要であると思いますが、あまり規模が少ない環境ですと、そのような学びがしにくいということもあると思います。また、発達障害のある子どもたちは環境ががらっと変わってしまうようなことが苦手ですから、長いスパンで連続性のある学びの中でゆったりと伸び伸びと育っていける安心・安定した学びの環境が必要だと思います。それを考えますと小学校についても再編を進めていく必要があると思います。

中野教育委員：子どもたちの数の推移を見て、長いスパンで見るとこれだけ少なくなっていくのだなと驚いています。3年後、5年後、10年後、三田の中で少子化が進んでいく現実を考えると小学校の再編は抜きにしては考えられないと思います。そして再編が手段・目的ではなく、子どもたちの成長・発達、あるいは三田を担っていく子どもたちをどう育てていくのかという視点から考えると、よりよい環境を与え、学ぶ機会をどう保障するかが本当に学校教育の大事な部分だと思います。複式学級には複式の良さがあり、少人数は少人数の良さがあるのですが、自主的な考えを持ち学びに向かう子どもたちをどのように育てていくかを考えれば、適正規模というのはやはり必要になってくると思います。特に発達段階がまだまだ幼い1年生から大人に近づく6年生までのスパンを考えていくと、望ましい人間関係の中での学びが保障されることがますます大事になってくると思います。幼稚園とは違い、小学校は義務教育が始まることから、保護者にとって

も子どもたちにとっても、学ぶ場所がもう幼稚園のように「選択制」ではないという現実があります。だからこそ、適正な学習環境が整えられるように、1つの地域だけでなく3つ、4つの地域が1つになることによるプラスの部分、学校も保護者も地域も互いに考えていくことがとても大事になってくると思います。児童生徒数の将来推計を踏まえ、中学校の再編等も含めた中で、小学校の再編についてもスタートする時期に来ていると思います。

鹿嶽教育長：最初は教育委員会としましても、課題が大きい中学校から進めてきたわけですが、あり方審議会を設置させていただいてから4年が経ち、また上野台中学校、地域や保護者の方々とお話を始めて2年以上が経っている中で、やはり小学校については検討していかないといけない時期だと痛切に感じています。中野委員の発言にもありましたが、就学前は幼稚園や認定こども園、保育所など、子どもたちが学ぶ場所は選択ができますが、小学校に入るとその地域に住んでいれば、その校区内の学校にしか行けないという制約があり、その中で子どもたちの数がどんどん減っています。離島や本当に過疎地域で物理的にどうすることもできない地区であれば、小規模の学校の中でいかに子どもたちの教育を育んでいくのかを中心に考えないといけないのですが、三田という地域の中で、再編という方法により学びの環境を変えることで、子どもたちにとってよりよい教育を提供することができる可能性があるのであれば取り組みを進めていく必要があると思っています。これまで中学校の再編の部分で、地域の方々から様々なご意見をいただいた経験も踏まえ、小学校、その上の中学校も含めて検討する場合にも、まずは保護者や地域の方々が思いをご意見としてお聞きしていく中で進めていくことが大切だと思っています。我々の学校教育に対する考え方も十分お示しし、どのような方策が最も望ましいのかを皆さんと一緒に丁寧に時間をかけて考えていきたいと思っています。農村部だけでなくニュータウン地域でも本当に少子化が進んできています。令和4年度からは、小学校、その上にある中学校も含めた新たな学校再編が三田ではスタートするという気持ちで、取り組んでまいりたいと思っています。

森市長：事務局から補足の説明などありましたらお願いいたします。

外岡次長：子どもは子どもの中で育つ、いろんな刺激を適正な規模の中で子どもが受けながら育っていく、そのような望ましい教育環境の実現を目指すところです。子どもの小規模化が進んでいるといった状況を保護者や地域の方に丁寧に説明し共有しながら、課題に対するご意見も十分聞きながら、今後の子どもたちの望ましい教育環境づくりに必要なことについて議論を深めていき、一つの形にまとめ、再編という手法を取りながら進めていきたいと思っています。

森市長：ありがとうございます。それでは、事務局からの提案をベースにしながら進めていただきたいと思いますが、三田市立学校のあり方に関する基本方針に基づき、まずは課題の大きい中学校の再編から取り組んできましたが、中学校のみならず小学校においても小規模化の課題が明らかになってきており、小学校についても、課題解消に向けた取組、再編の取組を進めていくこととします。また、進め方につきましては、対象となるエリアの各学校単位で、学校の小規模化に伴う課題や望ましい教育環境について、保護者、地域と協議する場を設置し順次協議をしていくことで、よろしく願いいたします。

②第2期三田市教育大綱（案）について …資料B-1、2

〈横溝室長から説明〉

森市長：まず巻頭言、方針1から方針3の修正案について、ご質問、あるいはご意見がありましたらお願いしたいと思います

大野教育委員：大綱の6ページ、方針3（2）**新**G I G Aスクールへの対応の本文の部分はよく練り上げられていると思います。ただシタイトルの「**新**G I G Aスクールへの対応～デジタル技術の活用～」という文言が、やや国の施策のままという印象が強いかと思います。より積極的なイノベーションへの対応を打ち出すような言葉にさせていただいたらもっと良いと思います。学校教育におけるICTの活用は全国的な課題ですが、そこでは促進支援的なリーダーのあり方も求められる側面もあるので表現を大事にした方が良いと思います。

森市長：事務局から補足の説明などありましたらお願いいたします。

外岡次長：「G I G Aスクールへの対応」という文言は一定整理をさせていただいて、修正を検討させていただきます。

森市長：次に方針4と方針5について、ご質問、あるいはご意見がありましたらお願いしたいと思います

中野教育委員：特に大綱の巻頭の部分ですが、これを読むと教育だけの問題ではないことが本当によく表れていると思います。全ての施策が、学校教育に限らず福祉、まちづくりも含めた市全体の大事な基本の方針になっています。方針4、方針5は、行政のまちづくりと学校教育が両輪であること、地域人材が活力ある未来を目指すために大事な要素となることが書かれていると思います。それから、方針4（3）の多世代が集う子どもの居

場所づくりの部分ですが、地域づくり・まちづくりの拠点構想も含めて、これからは学校だけでなく「第三の子どもの居場所」づくりが重要となることが、子ども教室や子ども食堂などの具体名を挙げて記載されておりよく理解できます。やはり、ライフステージに応じた学習の機会、いわゆる生涯学習という視点から、子ども世代、子育て世代、そしてシニア世代、それぞれの世代が交流できる今後の三田の教育が、この大綱を中心として具現化されればと思います。

三木教育委員：方針4（2）幅広い教育活動支援と地域の活性化の学校支援ボランティアの部分ですが、ボランティア登録者は多いのに、先生方が遠慮されて支援をあまり活用されておらず、ボランティアの方々の出番が少ないと聞いたことがあります。先生方も遠慮なさらずに地域の方々の支援を得ていただきたいと思います。また、子ども食堂も放課後の子どもたちが安心できる地域の居場所として各校区に1つずつできたらいいなと思います。方針5（1）地域の歴史や文化に触れる機会の部分ですが、歴史や文化に触れる、またプロスポーツの素晴らしい選手たちとの交流も大切ですが、最先端で活躍されている職人さんやプロフェッショナルの方と交流するような機会も必要ではないかと思います。（2）の生涯スポーツの推進の部分は、全ての人を対象としていると思いますので、障害者スポーツを進めていく上でも、理解促進や支援・介助体制のための人材育成や理解が必要です。そのためにも生涯学習やスポーツを通して、障害があるなしにかかわらず、健常者と障害がある方で支援を必要とされる方が、趣味やスポーツと一緒に楽しみ学ぶ機会を提供していただきたいと思います。

森市長：事務局から補足の説明などありましたらお願いいたします。

山本課長：学校支援ボランティアについては、確かに小学校、中学校で活用に差があるのも事実です。支援の内容として、子どもに対しての支援のほか教員に対しての支援、施設・設備の改善支援など様々な側面で支援をしていただける機会があります。来年度以降、教育委員会としてもコミュニティ・スクールの一層の活性化を働きかけていく予定です。学校支援ボランティアは学校と地域の架け橋を担う重要な存在だと考えておりますので、小学校、中学校で活用が進むよう積極的な情報提供や活用の具体的な進め方などを説明していきたいと思います。

横溝室長：子ども食堂への支援の状況についてお伝えします。子ども食堂は、地域の方が、ご自分たちの地域の子どものために地域毎に問題意識をもって運営をされています。行政からは、防災備蓄品、「コロナに負けるな！」エール基金を活用したアクリルパーテーション等の支給や、あるいは社会資源とのコーディネートに力を入れています。今は寄附も大型化していますので情報を適切に提供して、子ども食堂の運営経費や負担が軽減



できるよう、この2年間で9回程度の物資等の支援につなげています。ほかの地域の方で自分の地域で子ども食堂をやってみたいと思う方がおられる場合は、すでに運営されている所を見学に行き、リアルなお話を聞いていただける機会につなげています。行政が子ども食堂を作ってくださいではなく、地域で運営されている方々の共感が次の地域の子ども食堂を生んでいけるよう支援していきたいと思っています。その結果として校区に1つずつできたら理想的だと思っています。

大野教育委員：大綱の8ページ（3）ライフステージに応じた学習機会の提供と自己実現の部分にシニアという言葉がありますが、それぞれの市民がある時には担い手やリーダーになり得るなど、活力ある未来を展望できるように示されており、今後は是非このような施策を追求していただきたいと思います。もう一つ、6ページの方針4（1）に関わるコミュニティ・スクールの充実の部分の学校・家庭・地域の連携と協働の部分ですが、やはり学校・家庭・地域社会の相互の理解の深化が全ての鍵になると思います。私が理解をするところでは、兵庫県、三田市含め県下市町村は、学校教育における体験の機会の拡大やオープンスクール等での学校情報の提供については、全国と比べてみても頑張られていると思いますが、教育観の転換や三田における学校の小規模化にどう対応していくかを考えてみると、相互理解の深化という文脈を大事にしていきたいと思います。

森市長：事務局から補足の説明などありましたらお願いいたします。

外岡次長：学校を中心にコミュニティ・スクールの展開しております。家庭・地域との連携といった部分を深めるには、理解、共有するということが大事かと思っています。大野委員のご発言のとおり「相互理解の深化」という文脈のところ、文言・表現の修正を検討させていただきたいと思います。

中上教育委員：三田には関西学院大学があるので、大学生をもっと地域に呼び込む方法を考えていただくためにも情報発信が一番大事だと思います。方針4の学校支援ボランティアについても、やはり大学生のお兄さん、お姉さんの力をお借りして、地域の人たちと共に地域のあり方、例えば、学校が終わってからの居場所づくりや遊び方・過ごし方について、新しい仕組みをつくってってもらえたら非常にありがたいです。方針5の学ぶ楽しさの部分のスポーツ交流なども、大学生のお兄さん、お姉さんの方が子どもたちよりも豊富な経験や練習をずっと積んできていると思うので、子どもたちが「将来、お兄さん、お姉さんみたいに頑張りたいなあ」と未来を描けるような工夫を進めていただければと思います。

横溝室長：地域の居場所で、既に大学生が来られているところもありますが、子どもたちにとっ

てみれば身近な将来モデルだと思います。もっとより交流ができるように必要な情報提供などを大学生に対してしていきたいと思います。

中上教育委員：子ども食堂へは農協からも野菜など豊富な食材を提供させていただいています。また、三田の魅力というところでは、三田は昔から田園文化都市と言われていまして、地元のお米を使っただき、子どもたちが元気になれるような仕組みを考えていただくとともに、体力づくりには三田と、もっと地元・ふるさと三田をアピールしてもらえば大変うれしく思います。

鹿嶽教育長：巻頭の教育大綱策定の想いの部分では、第5次三田市総合計画において、人づくりがまちづくりの中心に据えられていることを踏まえ、この教育大綱があるということを記載させていただいています。他市町では社会教育や生涯学習といった部分も教育委員会が所管し、教育振興基本計画の中で記載しているところもありますが、三田市の場合は教育委員会が所管する部分は学校教育が主となっております。教育振興基本計画の中では、子どもたちを中心にいかに教育施策を展開していくか、地域の方々についてもあくまでも子どもたちをどう支えていくかという視点で記載しておりますが、教育大綱の方針4や特に方針5では、学生という教育を終えた後、大人になった三田の皆さんが、「この三田のまちに本当に住んでよかった」と思ってもらえるように、いかに自己実現をするために学びを続けていくのかという非常に重要な点を示させていただいています。本市教育振興基本計画でもふれている部分もありますが、この教育大綱を受けて、生涯スポーツや社会教育、あるいは文化についての方針などを具体的な個別計画などで表していただければありがたいと思っています。

森市長：ありがとうございます。三田市の場合は学校教育以外の生涯学習や社会教育は市長部局が取り組んでおりますので、今後も学校教育と連携を深めながら進めていく必要があります。それでは、本日、皆さまから頂戴したご意見については、私と事務局で整理をし、第2期大綱として年度内をめどにまとめ、皆さまにご報告をさせていただきたいと思います。市のホームページ等で公表をするとともに、様々な形で市民の方々に知っていただけるよう市全体で支援する施策を今後とも積み上げていきたいと思っています。

横溝室長：長時間にわたり熱心にご議論いただきありがとうございました。今日の会議は、これもちまして終了いたします。なお、次回につきましては秋頃を予定しております。ありがとうございました。